



蕉翁發句說叢大全卷第二

壹

葛飭

素丸著述

同

南臺檢校

春部下

八九間、空よ雨少る 柳、のれ

袋

云此句ハ柳の系此風よ麗きとある所り、是處八九間と云に

多

多此降と云極しる又也 **林** 云此句もともや、旁のこゝに

時く日の陰り、水出、柳、系、の、静、さ、ハ、八、九、間、も、云、に、雨、の、降、
心、地、こゝを、何、と、か、く、景、由、の、こゝ、に、是、こゝ、或、僧、の、素、丸、と、云、句、は、

ちりすやと予付句の意味を云ふは眼前の日此臨乃ちいふの
 ありくと桐家風情しとや人可と答へりし其僧ハ梅柳ハハ
 九間とつて是るの詩人の常しとてハ九間とハおきしとて息
 ず此へのしきり予不才あてとてハ下尋**解**此句を云ふは
 説**袋**すふ不あて。尤當なり**林**而乃はとてに臨るはと
 及多ぬる每方あのとて記さる。却てあゆむは。客僧の妄説尤
 堪笑なり。本據を云ふで。むとて人の句ハ評ししが此のいふ況
 や翁の句云ふをや。河原ハ梅柳のハ九間去へるを也。
 出所いす。とるど世俗の談なり。此句古人の説を也。あり。
 今奉て初輩のうぬに記す。○去来抄曰素行曰此句ハせうとて

此ハ知りぬ。庭亦たりと云ふはと西華坊曰此句ハ物語あり
 去来曰我もつり坊曰吾先あり木曾塚乃舊草にありて
 或人此句を問曰名雖ハ此柳ハ白壁の土飛此方此松皮膏乃
 ちりより中校とてはと此とてハ九間も云ふはとつり
 て春雨の降ふやぬるきりんとてやとて翁ハ障子の向
 ちりよりとてあてをえおとてはりや大佛の向よりあてが
 海柳を又云ふはとてやとて續猿蓑ハ妻乃鳥の畠柳
 不声とてハ聯うて春雨の降ふやぬるきりとははとて定
 ち海に去来曰我もつりの秋のちりやとてちり別墅にあり
 て世夷柳の句云ふはとてはとてはとてはとてはとてハ九

間の柳さる風情はりのこふはりしうとやうなはれ共よ
大佛のあつりまうとやけふとや氣ろこありまう共い
はつりはは俳諧をえふ事其人の胸中を草鞋をきいて
二之庵もけりららしよちうこえのやまよりはりし
名宗高達の人とては能はまうけりあゝのしんじんを
えふ其人よ迷ふハ馬に家家人とりよへしとての説秘
飛たりとては。安注ハ初輩のまよりしるまを歌き今郎
とてものし。初りを屋きとて。詩人の法を。云賣僧ハ片
腹のこき事也。○陶淵明の歸田園居詩曰。方宅十餘畝。草
屋八九間。榆柳蔭後簷。桃李羅堂前。とかはるる也。○

おろえを水しう。あうの大佛の柳もむり合ふて。佛時の
感偶乃吟し。ちりぬらん。唯ハ九間はりのあつ。に。雨乃う
とて。不俳諧ハ柳を雨とて。是也。○落奇云。雨ハとて。一
二カれとあ。てハ。え。ぬ。物。ち。う。で。春柳の系乃。あ。へ。家。は。
決。而。雨。あ。ひ。て。え。ら。め。ハ。ハ。九。間。の。と。あ。し。も。程。志。う。と。雨。と。見
ゆ。こ。つ。う。見。屋。し。り。さ。ぬ。あ。や。あ。ら。ん。と。此。説。も。ま。う。
持。う。と。幸。ふ。託。と。

鶯を繞りし柳をさるるたを柳

解

云莊子夢為胡蝶。栩栩然胡蝶也。無何。又化為人。不復知也。柳

解。鶯柳とて。名。ま。り。詩。文。と。
ハ。ハ。鶯。柳。と。名。も。倭。訓。ハ。鶯。名。と。ま。り。也。

乃眠子……系……白日……作者皆胡蝶の夢……
き……と……彼古事……故事に……
俳諧の在子…… **袋林** 此句……

説解 大に非……是故事……
嬌柳あり。胡蝶の夢……
の夢……
夏……
解……
……
る……

……
不比禁中人柳終朝剩得三眠……
柳……
又柳……
柳風前別有情……
……
……
……

ありの也。句意のあきらかに。解を及ぶ。

いゝ。推。まよ。五。一。具。

解 云。尖。雨。や。夏。中。下。ら。よ。秋。早。世。中。う。く。我。も。念。と。し。と。詠。不。影。ひ。あ。へ。頭。陀。乞。食。の。旅。り。よ。意。戒。の。一。句。と。る。と。人。

袋林 此句を出し

説 世。解。志。ほ。く。趣。を。得。た。後。よ。い。わ。れ。も。引。年。の。こ。に。て。向。上。の。文。才。由。急。初。米。の。年。に。為。が。く。夜。く。人。の。同。く。に。倦。し。う。か。依。句。解。か。し。は。文。章。を。勝。ら。し。う。詞。受。ま。り。正。しく。注。す。る。也。古。来。う。り。の。法。格。と。し。世。に。分。ち。き。こ。て。

是。も。又。解。ち。く。し。て。い。は。す。る。也。初。心。の。門。才。す。亦。く。全。く。は。○。此。句。の。支。考。は。松。嶋。行。脚。の。時。談。別。也。五。悉。一。具。と。し。也。素。の。是。ま。は。し。う。を。著。家。と。淋。し。と。し。つ。と。ま。ま。の。示。戒。と。花。の。吐。世。の。人。の。色。う。き。ま。ら。う。ら。に。思。ひ。も。う。ら。が。依。著。と。い。て。ま。ん。世。益。此。合。眼。も。つ。ふ。あ。れ。う。と。也。一。具。の。又。悉。と。知。足。と。も。生。涯。を。あ。や。ま。る。全。く。は。俳。諧。の。淋。し。と。小。権。全。よ。け。う。法。ま。は。く。く。と。し。つ。と。ま。ま。に。推。し。お。よ。が。し。慎。と。忘。却。と。も。あ。り。ま。う。か。と。う。り。か。つ。く。て。の。深。長。の。味。い。余。情。と。同。く。登。き。こ。い。あ。へ。乃。家。を。出。名。張。か。も。斗。藪。の。行。を。あ。た。く。い。と。事。留。て。俳。諧。私。う。ひ。た。り。也。行。脚。あ。ら。う。乞。食。頭。陀。の。境。界。の。一。句。

を舐しかりぬる

のめ

山はくらくくぬく物まづ二川

解

云齊宮の忌詞小佛をかうことし経を漆糸とし寺を瓦甞

ものといふ事なり世網よゆる瓦先を川二二の蔵王堂を扱ふ

袋林

此句を出る

説

蔵王堂の忌詞をわたり忌詞をわたりつてもも。齊宮の忌詞は延喜式小るしてそれあり寺を瓦甞ものといふも。かのるるる。中説をわたり。○延喜式五神祇齋宮式凡忌詞

内七言佛稱中子經稱漆紙塔稱河良々岐寺稱瓦甞云

るに瓦くものといふ家網を長嘯子の文才と。○奉白集

山家の記是ハ隱居常よ住所を瓦くりの二川。函丈二間をハ

まつてと。此のものと。文章の手紙より。源氏物

治すとも。竹をんをくつと。物せんといふ。河幽員也。ふ

れ長嘯子の文章す。わは。色は。詞をこの。ヤ。ハ

る。の。め。吹。あり。二の堂は。乃。必。あ。る。中。より。思

く。と。え。ん。と。瓦。く。も。の。先。二。川。と。ハ。中。より。二。川。と。云

西。より。思。ふ。一。芳。野。山。へ。入。り。と。云。や。海。の。中。に。ハ

く。く。と。二。の。堂。乃。又。也。目。前。也。一。飛。た。り。は。一。と。云

洞とある處うす竹阿黒處も物終りぬ瓦う物とす
の志洞より後。是らも世の洞答りていふ也。洞の古也。
知ていふ。如く如く。神皇の達し。後。其の。句。選。小。洞。は。
此句。如く。洞。古。多。く。是。叶。り。後。

鳥野あへく

らくも。此。志。き。り。ふ。志。一。誰。子。乃。七。奇。

林 云或集よきまらた悲しと有り。其の鳥野の禁よしの
吟せよ。よ。山。鳥。は。ら。く。と。鳴。く。と。志。き。け。と。又。う。そ。も。あ。ら。う。
と。そ。れ。よ。か。後。か。も。あ。ら。う。也。和。の。奇。
解 云良辨僧正の奇

よ。か。ろ。く。と。鳴。く。と。田。乃。き。一。誰。子。又。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。
世。詠。ふ。よ。ら。う。也。
袋 此句を出さば

説 **林** 引平河の行基の世平河りて。後の良辨。又けあ
ら。う。と。も。古。き。行。基。の。方。を。と。り。て。○ 夫木抄北七 雜九。

鷄 山鳥の志をきき。行基并。やまのりのかろく。と。鳴。く。也。
きけ。と。又。か。く。と。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。
と。○ 山鳥と誰子と。いふ。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。
と。く。と。も。い。ふ。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。
行基の比。い。ふ。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。
あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。あ。ら。う。也。

良振の引舟の後、古き村叟の云、行基の世詠、鳥所山
くしのこと、さうねをなす、動くすと云ふ

悼呂九

當歸より何れかの塚のすゝれ草

袋 云是追悼の句、故夏を引て表ひ此句しむ。地國、今
く悔ひて故心へ遠志を送るなり。是の遠く思ふこと、家つて其心
當歸を送り、是の當歸、一ふの心、是をいふ。一は當歸を送
出づより、墳地、董孝の心、一入表ふこと、是の遠きより、事
ものこえたり。**解** 云呂九は出羽國羽黒の藤の人也。翁の驥尾、

て一夜武江の深川、汲麻、其存洛乃、梅花坊小寺を越し、衣更着
此初旅中、舟へ、黄泉の客と、句、世句、云、當歸、唐の孟遲、詩
に、藤蕪亦是王孫草、莫送春香入客衣。藤蕪一名當歸、此二
字、當歸と讀く。夫の旅、わらわを、小園情の詩、爰に當歸の二字
そは、插るゝの、又楚辞九歌曰、悲莫悲兮生別離、樂莫樂兮
新相知、心を、當歸の、是は、後世、さ、い、なり、い、も、い、死、別、を
夫、う、も、表、し、と、云、句、意、句、董、州、の、塚、に、住、く、心、を、お、せ、る、る、

林 此句、出づり

説 **袋** 當歸遠志の、出、不、心、れ、亦、別、わ、く、心、當、ま、り、是、も、さ、ら、い、
か、去、り、し、此、句、當、呂、九、を、い、ひ、句、さ、ら、い、事、を、知、り、可、惜、

己一句の情々るといふ事いふ立派云

説 袋注 一向より不さし。兒童のまのいぶがぬし。林 引句似ても

まらじ。古来より。三月其此詩歌を引合らんよ。つれの詩奇
とんれ。春を惜すぬやいある。翁の句了ん。古奇をいふむい
し。あもも海どるごとし。解 幻住菴少の吟とよ海のまら

藤葉也。木曾塚の。菴少の吟に疑いあり。左記と○ 古来

抄曰春色や竹首あふ先師（是才一の證）湖南よりありし其を近江の

人と情をけふと云句派大津の尚白、海より其年をあまの人とい
らんも其を丹波の人といらんも同一事なり。海より一句ありと
とえり。と中き去来汝のうむく作らるしを尚白と言ふやう

す近江の人と情をけふは湖の勝勝なるおふしの住家ありとあ
らし著英りし丹波よりわたりとより世趣向より海より岸
著又近江よりあまのしりとりより世感なる下風流ちあの間り
其場よりあまのしりとりより中きわの去来汝の風雅を海よりその
と感賞よりあまのしりとり其場より其事を知念き也と云○ 支

考古今抄之発句の句絶より小をの多尔波小知をあらしと物
名めた大廻りといふ云云 是才二の證 木曾寺の偶作あり

本名義仲寺也

世句も例の心を色と情とをりて決定して平句の雅も述られ
し。まは情とるる原不河くうしてと下段より心をあらしと句
外の意味ちとるる原不河くうしてと下段より心をあらしと句

一箇の素烟回赤花百こさちを磨き世界と何であらん生涯を
 送るふゆこらふく素烟よむえ影あふ花ゆと我々此非やうり
 是くの句也 **林** 公西川の句よ素花あふりる面あふやまうすいも娘
 魚あふく鐘ふ翁も西行のうまうし歌とていふ曲やうらやまれき
 説 是又し川やうらうらつげん入やうらり翁の句うらふ家多
 親忠ばうり珍ぞゆきや句選ふもそ外の諸集より今川
 の題えらぶと是亦は人のうらうら題ふも翁一うらうら
 せうりえとらふ神公の葉う又下子の夢家所己翁ハ即
 真感偶の句あまうらり初單此事せりてうらうら又
 葉うらうら天地とらふと心せやうらうら後うらうら何ぞ

とうふき文と歌やうらうら安心とらふらめいりてと
 まうらき初と心花やうらうらえそたのう清算也とらふ
 能てうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 やうらうら言流始終貫通もぬ **林** 葉うらうらうらうら許六
 空院法師あつる葉一字もたがもど杉雨か涙あふらうら許六
 のうらうらも出る葉もや古人の流を盗むいん心黒きとらうら
 わらうら **○** 白意ちわきうらうらうら海もほと入らぬ句あ
 雀の指どころやうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 梅ふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

袋云此句題梅林とあり然もは梅の白く咲く時を以て
是れ好む林和靖と云ふは此の意に非ざるも一きもつたふ鶴
斗の多きいきけや鶴を畫すやいと詠ふ所の句作也

○說梅林の題句選少となく、其外諸集と又何となく、是も梅
小好車の人乃流るるのなりわ、世注の素樸なり、何れなり。
○太来抄曰古藏集に此句をわけ先師の之と云ふは
一也是も梅の白く咲く時を以て詠ふ所の句作也
秋風の洛陽の富家よりまわ市中をわり山影く閑居し
詩弁をたのしく騷人歌をすもさし渠にむらさきく
うて風簾隱居の人と思ひ給ふ、なけ作あり先師の白く傍

詠ふ一評者の白く傍偽りりりそのとさほく招けもり給ふ
誦ふ歎く命一知ろのうと又句幹此物らもさき其代乃
風し子亥一巡のほほこの格おまふとと○筆談曰林逋
隱居孤山常蓄兩鶴縱則飛入雲宵盤旋久復入籠中
逋常泛小艇旋西湖諸寺有客至童子出應門延客開
籠縱鶴良久逋歸常以鶴飛為驗け故事を好まえて洛の
秋風で林和靖くやうとと句をい今日秋風を招の色
くりてるいむ梅もさかりふ閑居のふほつはけりけぬも
かの林逋のたぐひやわらわら去なつら鶴乃えりぬりや
きぬふりり鶴を畫すやいと詠ふ所の句作也秋風を林逋に

蘇翁の蘇旦不

人もそぬほるやかみのうらめ梅

こつふ句のうらめりる人を初瀬のこよありける家の句讀の似
うらめし感懐の咏嘆の吟考よこそと素堂隱居の海を
しう思へし句讀の具合めし爰に熟識せしらんや
さしけうりるれ家のうらめりる人を切やえ初
瀬の山おろしとけしついにのりぬのそとよまごよ一息
に讀むを一首でうらめりる息ぬよしけりらめしやあ
さやしたる吟考咏嘆もこころなりと古人の海一垂り也
此句もよめりる人もそぬほるやと切し讀のうらめ梅と二口

よよし句讀也かよよふよめば句の意のつきりとわりのふゆ
素堂もそととてたらしめし也能く考(味よる)説
三考もろふ俳句に句讀の名目古(より)なきも也全く支考
作めし道を私の一助めとせしや去りて存世の好夏
の人を考にすしうてあそとけし法格を作らざるも支
考也的とするこころなりつる千梅論せしや弘しきも
支考なり害もろふも支考なり此句のやいと色なりか
さび古法にふ中のや也と知るし支考なりわらびよ句讀の名
目を附會せし後るはし句讀のふ名もよとて己
の罪をわらひし成り○此句意はたかの人よあしぬも説

芭蕉翁松鶴獨吟	<small>雲南</small>	一冊
檀林發句集	<small>宗因哥仙入</small>	一冊
俳諧六匠集	<small>芭蕉其角嵐雪 支考素堂註者</small>	一冊
新山家	<small>其角</small>	一冊
春の日	<small>越人</small>	一冊
新二百韻	<small>其角</small>	一冊
新三百韻	<small>其角</small>	一冊
武耐百韻	<small>雪中菴社中 吏中</small>	一冊
俳諧家譜		三冊
花摘	<small>其角</small>	二冊
續花摘	<small>湖十</small>	二冊
柳居發句集	<small>門瑟 近刻</small>	
春のりき	<small>木荷</small>	一冊
同家譜拾遺		一冊
柿莚	<small>宗瑞 蓼和一</small>	一冊
季立大全		近刻
俳諧世俗字彙		近刻

京堀川錦ル町
 西村市即右衛門
江戸本町三丁目
 西村源六梓行

